

ポスター | 1-08 電気生理学・不整脈

ポスター

ペーシング療法

座長:坂口 平馬 (国立循環器病研究センター)

Fri. Jul 17, 2015 2:20 PM - 2:50 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-069~II-P-073

所属正式名称: 坂口平馬(国立循環器病研究センター 小児循環器科)

[II-P-071]早産・低出生体重児の先天性完全房室ブロックに対する新生児期 pacing治療戦略に関する考察

○福永 英生¹, 中村 明日香¹, 原田 真菜¹, 古川 岳史¹, 大槻 将弘¹, 高橋 健¹, 秋元 かつみ¹, 稀代 雅彦¹, 清水 俊明¹, 川崎 志保理² (1.順天堂大学医学部 小児科, 2.順天堂大学医学部 心臓血管外科)

Keywords:完全房室ブロック, 低出生体重児, ペースメーカー

【背景】早産・低出生体重児 (LBWI) の先天性完全房室ブロック (CCAVB) は未熟性による呼吸・循環障害の合併により予後不良で、pacemaker植込み (PMI) 時期決定にも苦慮する。【目的】LBWIのCCAVBの自験例を提示し、治療戦略を検討する。【症例1】在胎30週6日、出生体重1624g、胎児水腫 (胎児心不全徴候) 合併。心拍数50bpmで生後4時間より一時的心外膜 pacingを開始。日齢49 (修正38週)、体重2470gで PMIを施行。術後は縦隔炎に対する長期管理を要したが、7か月で退院。【症例2】在胎30週2日、出生体重808g、胎児水腫合併。心拍数40bpmで生直後より一時的心外膜 pacingを開始。新生児遷延性肺高血圧症も合併した。日齢63 (修正39週)、体重1894gで PMIを施行。術後は創部感染や胸水貯留を合併した。慢性肺疾患合併のため5か月で退院するも在宅酸素を要した。【考察】LBWIに対する新生児期 PMIでは感染や消化器障害等が多く、合併症は致命的となることがある。また、長期間の体外式 pacingは安定性に欠け、感染リスクへの注意が必要である。本2症例は、複数の一時的 pacing wireを使用しながら創部管理を行うことにより、体重2000g以上を目安にした長期間の体外式 pacingを施行し、新生児期 PMIを回避することで、術後合併症は生じたが致命的経過は避けられた。